

金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム

2004年、「まちに開かれた公園のような美術館」を建築コンセプトに、現代美術に特化した美術館として開館した当館は、展覧会や教育普及プログラムを通じて、多様な鑑賞者が同時代の多様な表現に立ち会う場を創出してきた。

「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」の基本的な構想が生まれたのは2006年。社会教育施設である美術館が、芸術活動を通して現代社会に対峙する方法を模索するなかで、ストックホルム近代美術館で実施されている10代後半の若者を対象とした教育プログラム「ゾーン・モデルナ」¹の方法論を導入しつつ、当館では、特に現代の若者をとりまく社会問題を視野に入れ、若者²の人間形成への貢献を目的とした美術館教育プログラムとして独自の展開を試みた。2007年、その第一弾としてアーティストの日比野克彦を迎えたプロジェクトを始動させ、以来、ワークショップを組み込んだ、長期にわたるワークインプログレスの展覧会形式が定着し、調査研究、企画展示、教育普及にまたがる事業として、当館の美術館活動の象徴的な事

例となっている。

プログラムのなかで参加者は、長期にわたってアーティストと交流し、表現にかかるあらゆるプロセスに主体的に関わり、美術館を中心に様々な出会いの場をつくり上げていく。さらに、アーティストや参加者同士の共同作業のみならず、鑑賞者やプログラムに関わる多様な人々との交流を通じて、自己像や世界像を再発見し、成長していくのである。

あらゆる表現の可能性を受け入れ、ライブな場を創出するために、公共施設として対面する課題は多い。しかし、こうした実験の場をそのまま展覧会として提示していくことは、現代美術館における調査研究の有効な手法であり、挑戦に値する成果をもたらすと考える。

(平林恵)

*1. スウェーデンのストックホルム近代美術館において、10代後半の若者を対象に、2004年から実施している教育プログラム。美術館で開催中の展覧会と関連したテーマのもと、高校生らがアーティストとともに作品を作り上げる。このプロジェクトを通して、若者たちはアートの様々なプロセスに主体的に関わりながら、新たな価値観に触れ、現代美術をより広い視点で理解していく。

*2. 当館では、18歳～39歳の若者を主要な対象としている。